

1 主題名

相手の立場を考えて親切に 「B-(7) 親切, 思いやり」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

親切のよさや難しさを理解するとともに, 学校や公共の場において, 相手の立場に立って親切にしようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

(2) 教材名

「くずれ落ちたダンボール箱」 (東京書籍 新しい道徳5)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

相手に対する思いやりの心を持ち, 親切にすることは, よりよい人間関係を築く上で求められる基本的姿勢となる。この内容項目については, 低学年で, 「身近にいる人に温かい心で接し, 親切にすること」, 中学年で「相手のことを思いやり, 進んで親切にすること」とあり, 相手を思いやり, 親切にすることの大切さを指導している。高学年においては, それを発展させ, 「誰に対しても」や「相手の立場に立って」という内容が加わるとともに, 家や学校といった狭い範囲だけでなく, 地域社会における公共の場所などの活動範囲においてもそれが求められることになる。相手の立場を深く理解し, 自分がどのような言動を取ることが相手のためになるのかを考え, 行動できるようになることで, よりよい人間関係が構築されていくものとする。

(2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

児童は, 学級や学年といった集団の中で生活しながら, 各教科の授業や行事等に取り組み, 相手に対する思いやりや親切な行為の大切さについて理解してきている。道徳科の授業では, 思いやりや親切な行為のよさを指導するとともに, 日常生活においても, 児童の具体的な行動を取り上げ, 「親切, 思いやり」のよさについて励ましたり, 確認したりしている。そのような指導を通して, 学校生活においては, 友人等の立場に立って考え, 行動することができるようになっている。しかし, 公共の場における多様な人々に対しての親切や思いやりに関しては経験が少ないことが考えられる。初対面の人や初めて直面する場面においても, 適切な言動を取ることができるよう, 「親切, 思いやり」のよさを深く理解するとともに, それを公共の場においても進んで実践しようとする道徳的実践意欲と態度を育てたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は, ショッピングセンターに友人と買い物に出かけた主人公が, 通路に積んであった段ボール箱を男の子が崩してしまったところを通り掛かるという内容から始まる。男の子が迷子にならないように, 男の子と一緒に店に来ていた祖母の代わりに段ボールの積み直しを手伝っていると, 店の人に崩したと間違えられ注意を受ける。後日, 学校に店から誤解のお詫びと親切な行為への感謝の手紙が届き, 全校朝会で紹介されるという内容である。

本時では, 登場人物への自我関与を中心に学習を進めていく。おばあさんの立場を理解し, 親切な行動を取った主人公たちの心情に目を向けさせたい。また, 店員に注意を受ける場面で主人公に共感させることにより, 親切な行為のよさや難しさといった価値理解や人間理解について考えを深めたい。最後に, 教材を通して, 相手の立場を考え行動することは, お礼の有無に関係なくよい行為であることと, 認められることによってより意欲が高まり, 周りにもよい影響が広がることにも気付かせ, 相手の立場に立って親切な行為をしようとする道徳的実践意欲と態度を育てたい。

4 学習指導過程

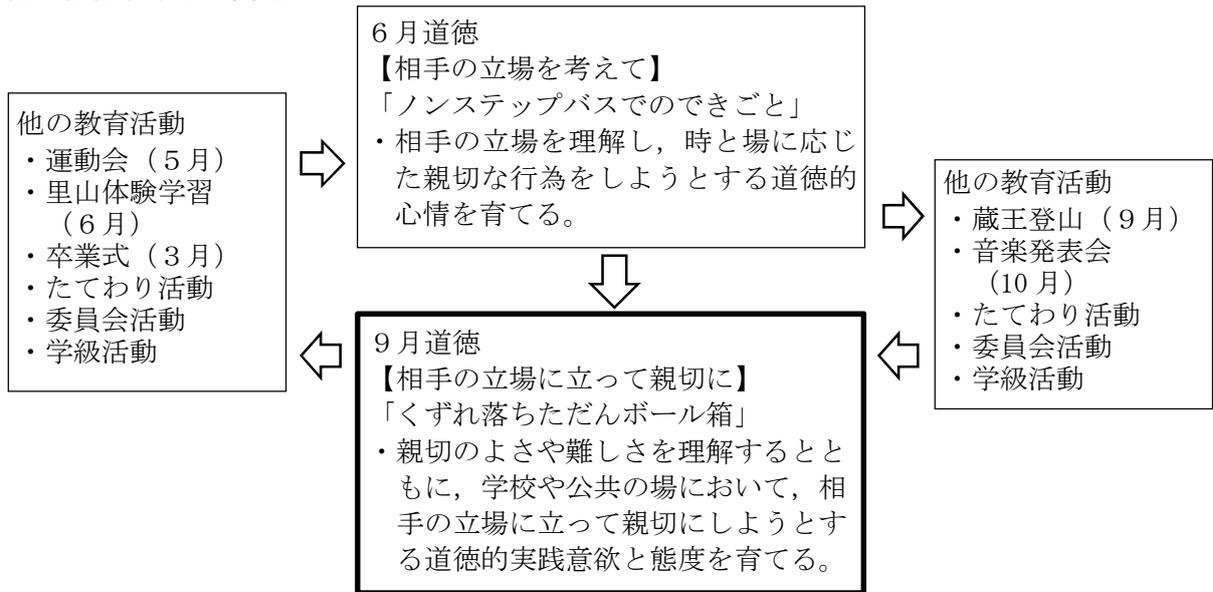
	学習活動 ○主な発問（◎中心発問）・予想される反応	指導上の留意点
導入 5分	<p>1 本時のねらいとなる道徳的価値について問題意識を持つ。</p> <p>○ 親切な行いと聞き、どのような行いを思い浮かべますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困っている人に声を掛ける。 ・お年寄りの手を引く。 ・電車で席を譲る。 <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">親切について考えよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいについて問題意識を持たせるために、具体的な親切な行為について想起させる。 ・自分事として考えさせるために、出た意見の中から具体的に自分がしたことのあるもの、しようと思ってできなかったものについて聞く。
展開 40分	<p>3 教材の前半を読み、親切のよさについて確認する。</p> <p>○ 「わたし」と友子さんが落ちた段ボール箱の片付けを手伝ったことで、どのようなよいことがありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男の子が迷子にならずに済んだ。 ・手伝ったことで、おばあさんに喜んでもらえた。 ・周りの人が、通りやすくなった。 <p>4 教材から登場人物の心情を捉える。</p> <p>○ 誰も手伝わないのに、なぜ「わたし」と友子さんは手伝ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おばあさんが男の子のことをとても気にして心配していたから。 ・男の子が迷子になってしまわないように。 ・困っている状況で、手伝う人がなく自分たちがしなければと思ったから。 ・おばあさんへの優しさ、思いやり。 <p>○ 店の人に注意を受けた「わたし」はどのような気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とても複雑な気持ち。 ・いらいらしている。文句を言いたい。 ・手伝いを止めてしまうかもしれない。 ・おばあさんが助かったのならいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公の複雑な気持ちを考えさせるため、資料の分割提示を行い、学校に手紙が来る前の場面まで範読する。 ・おばあさんの困っている状況をつかませるために、場面絵を利用してあらすじを紹介してから範読する。 ・「親切」に対する価値理解を深めるため、主人公たちの行いのよい面を確認する。 ・問い返しの例 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・おばあさん（男の子、周りの人）にとって、どのようなよいことがありましたか。 </div> ・親切な行いはよいと分かっているにもかかわらずできないという人間理解を深めるために、すぐに行動せず少しの間様子を見ていた主人公たちの気持ちについて問い返しで深める。 ・問い返しの例 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・主人公たちは、なぜすぐに行動せず、少しの間様子を見ていたのでしょうか。 ・おばあさんの立場になって考えてみるとどうでしょうか。 ・主人公たちが手伝わなかったらどうなっていたと思いますか。 </div> ・「わたし」に共感させるため、自分との関わりで心情を捉えさせる。ペアやグループでの話し合いで、意見交流させる。

<p>◎ 「いいえ、いいんです…。」の後に、あなたなら、どのような言葉を入れますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・でも間違われて嫌でした。 ・役に立てて良かったけど、店の人から一方的に注意を受けたのでいらいらしています。 ・男の子が迷子にならなくて良かったですね。 ・おばあさんが男の子のところに行くことができて良かったです。 ・余計な気を遣わせてしまうので、注意を受けたことは、言わない方がいいかな。 <p>5 教材の後半を読み、親切という道徳的価値について理解を深める。</p> <p>○ 「わたし」の足取りがいつもより軽かったのはどのような変化があったからですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意されてもやもやしていたけれども、誤解が解けて良かった。 ・おばあさんを手伝ってよかったと改めて実感できて良かった。 ・少し後悔もあったけど、親切にするのはとてもいいことだと分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親切な行いをしたにもかかわらず、注意を受けてしまった主人公の複雑な心情を、多面的・多角的に捉えさせるように、様々な視点から考えさせる。 ・問い返しの例 <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、おばあさんに、店の人から注意を受けたことを言わなかったのですか。 ・おばあさんが、注意されたことを伝えられたら、どのような気持ちになりますか。 ・店の人に対しての感情はまったく無くなったのですか。 ・自分の行動に対して後悔はないのですか。 ・「親切」についての価値理解を深めるために、人に認められなくとも親切のよさは変わらないが、認められることによって更に意欲が高まり、よい影響が広がっていくということにも気付かせる。 ・問い返しの例 <ul style="list-style-type: none"> ・お礼がなかったら、親切な行いは、親切ではなくなるのですか。 ・うれしい気持ちになったのは、「わたし」と友子だけですか。
<p>6 自己の生き方について考える。</p> <p>○ 今日新しく分かったこと、考えたこと、これからは生かしたいことを書きましょう。</p> <p>終末5分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場をしっかりと見極め、進んで親切な行いをしたい。 ・同じような場面に出会ったら、勇気を持って行動に移せるようになりたい。 ・親切にしてもらったら、素直にお礼を言うようにしたい。 ・難しいと思いますが、見返りを求めず行動したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値についての考えをまとめ、自己の生き方についての考えを深めさせるため、書く活動を取り入れる。

【評価】

相手の立場に立って親切にするには何が大切になるか、自我関与中心の学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。

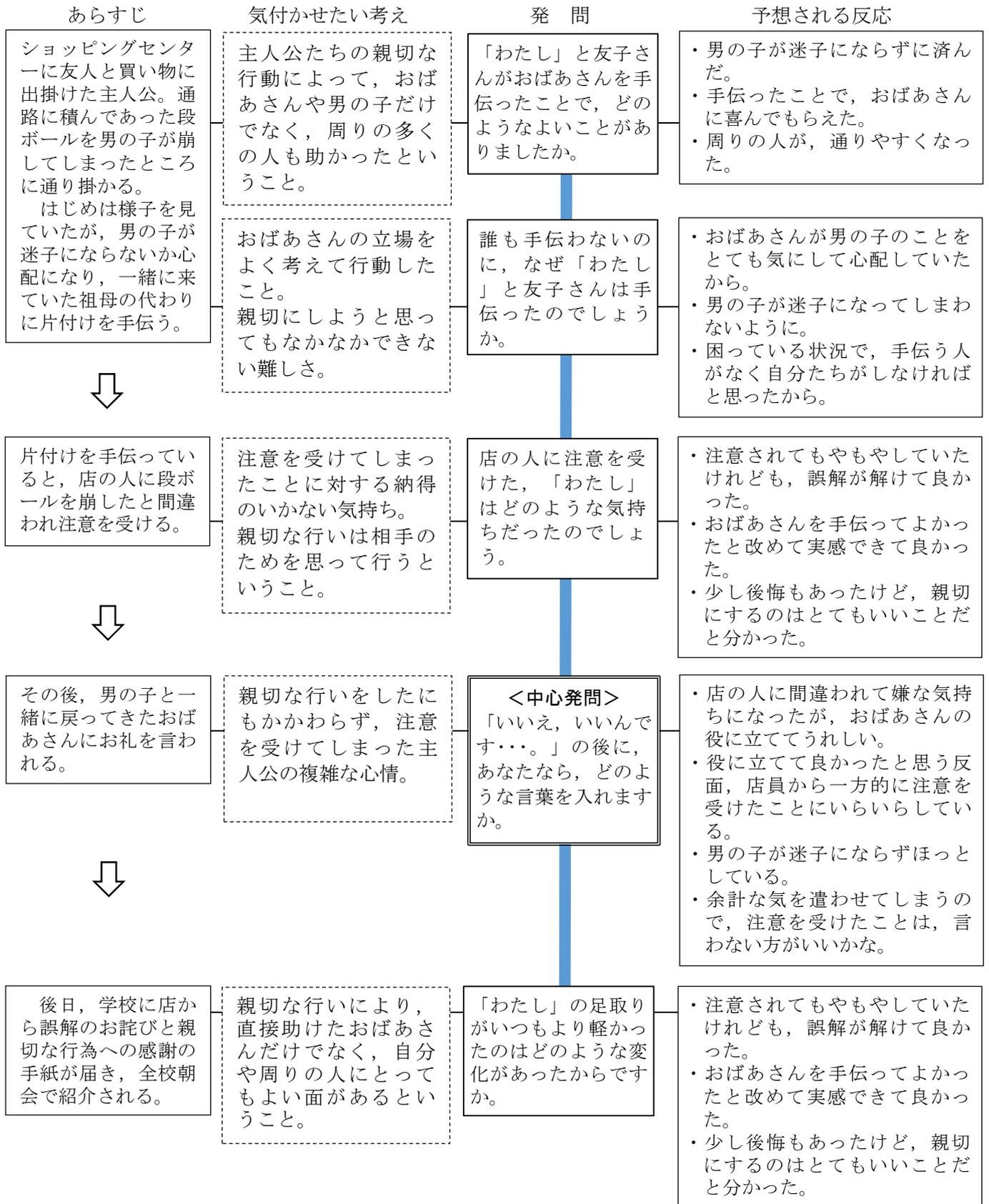
5 他の教育活動との関連



6 補充・深化・統合の視点【深化】

この教材は、「親切，思いやり」をねらいとして扱っている。これまでに学んだり，経験したりしている「親切，思いやり」の行動については，学校における友人等児童同士のものが中心と考えられる。高学年という発達段階において，今後は公共の場での「親切，思いやり」が大切になる。教材に描かれている主人公の心情を捉えることにより，親切的な行為のよさや難しさについて再確認したい。児童のこれまでの経験と照らし合わせながら，公共の場における，「親切，思いやり」の行動について深めたい。

7 教材分析・発問構成



8 教材分析・発問構成

教師：教科書，ワークシート，場面絵

生徒：教科書

板書の工夫で、道徳的価値を構造的に捉えさせた

「親切」という道徳的価値を木に見立て、構造的に示した。目に見える幹の部分を行動として表れる「親切」とし、親切によって広がる「親切のよさ」を木の枝や葉で表した。親切を支える道徳的価値である「思いやり」や「勇気」、親切にしようとしてもなかなかできない「人間理解」の部分を木の根として表した。

- 道徳的価値とそれを支える構造が視覚的に分かりやすくなった。
- 登場人物の心情や思いをつかませ、道徳的価値の理解の広がりや深まりを視覚化するために、場面絵を活用して、話の流れに沿って板書を工夫してもよいと感じた。

(3) 終末

振り返りの視点を与え、自己の生き方について考えさせた

振り返りの際、「今日新しく分かったこと、考えたこと」「これからに生かしたいこと」を視点として示し、これまでの自分を振り返り、何を生かしていきたいか考えさせた。

- 視点を示したことにより、これからどのようにしていきたいかを考え、振り返ることのできた児童が多くいた。
- 親切をする際、「相手の立場に立って」という点についてももう少し考えられるように、中心発問やその前の基本発問において、深めておく必要があった。

児童の感想

- ・ 困った人がいたら、恥ずかしい気持ちや誰かがやってくれるなどの気持ちを捨てて助けたい。たくさんの人に親切にしたい。
- ・ 親切にしたら、勘違いをされてしまっても、自分に返ってくるということが今日新しく分かった。勇気を出して頑張りたい。私が親切にして勘違いされてしまっても、今日の勉強を生かして頑張りたい。お年寄りや困っている人、低学年にやさしく親切にする。
- ・ 親切にすれば、自分も親切にされた相手もうれしい気持ちになれるということが分かった。僕は今までそんな親切はしなかったもので、これからは積極的に親切にしようと思った。
- ・ 恥ずかしくても勇気を持って進んで手伝いをする、またはしてみようと思えることが大切だと分かった。これからは進んでやってみたい。
- ・ 怒ってしまった店員さんも後からしっかり理解してくれてことがよかった。今度は自分が困っている人を助けてあげたい。この話を読んで、見ているのではなく、自分からちゃんと手伝いたいと思った。